

令和2年度入学（一般入試 後期日程）試験問題の出典

看護学部

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	一	上田 紀行	愛する意味	光文社新書, 2019年より pp.164-169	光文社

令和2年度 一般入試・後期

看護学部

小論文 (90分)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、3ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆(シャープペンシルも可)で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(150点)

人類史の中で私たちの祖先は、どんなときに人が「イキイキ」と創造的であり、どんなときに創造性を失って病むのかという「叡知」を発展させてきました。

飲んだくれていて仕事をしない夫だとか、ずっと元気がなくなだれている娘、あるいは何かの皮膚病がぜんぜん治らないなど、ある種のストレスや心の悩みを抱えている人に対して、悪魔祓いは行われます。

村中から人が集まって取り囲む中を、呪術師が患者(悪魔にとり憑かれた人)と対話したり、仮面をかぶった悪魔による、まるでコント劇場のような踊りあり、笑いありの悪魔祓いを一晩かけてやってもらうと、なぜかみんな元気になるのです。

私は「どんな人に悪魔が憑くのですか」と聞きました。すると、彼らは「孤独な人に悪魔が憑く」「孤独な人に悪魔のまなざしが来る」と言います。

つまり、スリランカの人たちは、仲間にどう見られているかが、私たちの精神と肉体の健康に直結しているということを、非常によく知っているのです。

では、「悪魔祓い」のどこが、私たちを癒やしてくれるのでしょうか。

悪魔祓いでは、その人が背負ってしまった心の痛手を、悪魔のせいにして祓ってしまいます。周りの人のせいにもその人自身のせいにもしない。だから誰も傷つかないで、他の村人と交流を持った中で、自らの存在感を確かめることができ、患者の心が健康を取り戻すのでからだも健康を取り戻すのです。

その一方、私たち日本の社会では、心に闇を抱えた人は社会からどんどん切り離されていきます。

このことと関係があると思えるのは、日本人が子どもの頃から繰り返ししつけられていく「人様に迷惑をかけてはいけない」という教育^(A)です。

たしかに、道端にゴミを捨ててはいけないとか、電車の中では席を詰めて座る、大きな声で騒がない、行列に横入りしないなどは日本人のびとく⁽¹⁾です。

こういう細やかな道徳観念のおかげで街もきれいだし、犯罪率は低く、一見して住みごこちのいい社会になっているのもたしかです。

ところが、そのゴミのないきれいな街という条件の中で、心身の弱った人や悩みのある人はだんだん居場所がなくなってしまう。「こんな自分はみんなの迷惑だ」「いなくなってしまったほうがいい」と、まるで病んだ自分まで、ゴミのように感じてしまいます。

「悪魔祓い」の「孤独な人に悪魔のまなざしが来る」という言葉はなかなか深いところをついています。

私たちは誰でも何かの人間関係の中で助け合いながら生きているのですが、そこで「いつも頑張っているね」とか「応援しているわよ」というまなざしを感じることができていれば、その人のところには悪魔が来ないのです。

ところがそのまなざしが冷ややかで、「どうせできないくせに」とか「お前なんかいなくたっていい

んだ]「君の成功なんか祈っていないよ、失敗のほうばかり祈っているんだ」という感じになってくると悪魔が来る、つまり心とからだの健康が脅かされるということなのです。

日本人の自殺率は世界の中でも非常に高いのですが、厚生労働省がまとめた2017年の人口動態統計では、15～19歳の死因として自殺が1位になったことが報告されました。

いじめや貧困、家庭内の不和など青春期にありがちな悩みを抱えていても、誰にも相談することができずひとりで追い込まれているのではないかとがけねんされます。

本当にみんな「空気を読む」ということをしながら、⁽²⁾ちょっとでも変なことを言ったらいじめられると信じている若者がたくさんいると感ずます。

人間としてどれだけ重要なきろに立っていても、「迷惑をかけない」が優先されて、ホンネをさらけ出すことができない社会なら、⁽³⁾結局のところ、それは道徳でもびとくでもなく、実は、「見た目の秩序を乱してはならない」というだけのことではないかという疑問が湧いてきます。

「悪魔祓い」のよいところは、その共同体の子どもたちが、小さいときから悪魔祓いを通じて、弱った人が再生していくようすを見ながら育っていくことです。そこで、もし自分がこの先とてもきびしい立場に立たされたとしても、きっと周りの人が集まって悪魔祓いをしてくれる。そして再び立ち直れるのだ、ということを感じることが出来ます。

その実感によって子どもは悲観せず、楽観的に生きていくことができるのです。

今の日本社会ではどうでしょうか。誰かが心を病んでしまっても、子どもたちはその人が回復するところを見て育っていないのです。

そのかわりに、社会から切り離されて孤立したみじめな姿だったり、あげくには、「誰でもいいから殺したかった」と言って、車で突入したり、駅で刃物を振り回したりしてしまう。子どもたちはそういう姿をニュース映像として目に焼き付けてしまいます。

そこから学んでいるのは、どんなメッセージなのでしょう。

「一度失敗したら誰も助けてくれない」「人間は追いつめられると誰でもいいから殺したくなるものなんだ」という記憶を植え付けながら成長しているとしたら、どれだけの生きづらさを子どもたちに与え続けているのかということです。

愛というのは、大きな意味では世界の秩序をいじ⁽⁴⁾する機能を持っています。「人様に迷惑をかけないように」というのも、そもそもは互いに居心地よく暮らせるようにという愛であったと言えるでしょう。

しかし、弱った人を救わない共同体の秩序は、すでに硬直して単なるシステムになってしまっています。愛というのは本来、そのようにすでに死に体になってしまった秩序を上書きして、命の通ったものにしていく作用も持っています。

我々が、今の社会の持つ不寛容で非人間的なシステムに気づき、「こんな社会は嫌なんだ」とより人間的なものに上書きしていく力をはつきしていけばいいのですが、今はその力を信じている人が少ないというのも、⁽⁵⁾生きにくい社会になっている原因かもしれません。

世の中が、愛を互いに引き出すような関係性に満ちていけばいいのですが、そうでなければ私たち

の愛する能力はうまくはつきすることができません。また、他の人をひどく妬んだり、他の人の不幸を喜んだりという愛ではないものが引き出される関係性の中にあれば、私たちの中のその部分がどんどん引き出されてきてしまいます。

そういう悪循環を食い止め、正しい循環に変えていくのは、私たち自身に内在する愛を発していく
(B) ことからしかないので。

(上田紀行『愛する意味』, pp.164-169, 光文社, 2019年より, 一部改変)

問 1 下線部(1)~(5)に該当する漢字を記入しなさい。

問 2 作者は二重下線(A)が日本の社会にどのような影響を与えていると考えていますか、200字以内で書きなさい。

問 3 課題文をふまえて、二重下線(B)に対するあなたの考えを600字以内で具体的に述べなさい。